

東北学院大学五橋キャンパス整備計画

環境影響評価方法書に対する 市民意見及び事業者の見解

平成 29 年 10 月

学校法人 東北学院

方法書に係る意見の概要

意見の概要	事業者の見解
<p>●<u>研究棟（工学部）の学生実験，卒業論文用実験，修士，博士論文用実験，教官用工学的実験から出る騒音，振動，水質汚濁（化学実験）の環境影響因子についても考慮すべきである。</u></p>	<p>研究棟からの実験に伴う騒音，振動につきましては，屋内で行うため影響はほとんどないと考え環境影響評価項目として選定していませんが，建物の防音性を確保する等，屋外へ影響が及ばないよう配慮いたします。</p> <p>水質汚濁（化学実験）につきましては，実験で薬品を使用することから環境影響評価項目（簡略化項目）として選定しています。なお，排水管等については水質汚濁防止法に定める構造等基準を遵守するとともに，排水は中和槽により処理した上で公共下水道（合流式）に排水する計画としています。また，金属類を含む排水については，産業廃棄物として適切に処理する計画としております。</p>
<p>●<u>交通渋滞，交通騒音，交通安全性について，環境影響評価項目に掲げ，しっかりと評価すべきである。</u></p> <p>工事中の最大の問題点である交通障害，交通安全は環境影響評価項目の中に含まれていない。工事車両の東七番丁通の利用は禁止させなければならない。</p> <p>開校後は，仙台在住以外の人には地下鉄を利用せず，仙台駅から徒歩で通学すると考えられる。仙台在住の人は自転車通学となり，駐輪場まで東七番丁通を利用し，大学関係職員の通勤のための車両はほぼ東七番丁側からの進入が多くなる可能性がある。</p> <p>社会資本が乏しい東七番丁通りが東北学院五橋キャンパスへの通勤通学者によって占領され，交通渋滞，交通騒音，交通安全性への不安があり，この点を環境影響評価項目に選定し，評価することをお願いする。</p> <p>また，交通安全・治安対策のため，清水小路と東七番丁を結ぶモールは，非常時を除いて東七番丁に出る前に通行止とすべきである。</p>	<p>交通騒音につきましては，環境影響評価項目として選定しており，工事中及び供用後ともに東七番丁線を含む対象事業計画地周辺の沿道 5 地点において，調査・予測を実施し，その結果については準備書にお示しします。</p> <p>交通渋滞，交通安全性につきましては，仙台市環境影響評価技術指針により環境影響評価の対象とはなっておりませんが，学校関係者や本学生は原則として，自動車での通勤・通学をしない計画を検討しており，仙台市地下鉄等公共交通機関の利用を促進することとしております。併せて学生の自転車や徒歩による移動についての交通マナー向上を指導して参ります。</p> <p>また，工事車両の走行につきましても，東七番丁線は極力通らず，愛宕上杉通 2 号線，国道 286 号を主要な動線として利用する計画としており，交通への配慮を検討しています。具体的な配慮の内容につきましては，準備書の「交通計画」及び「工事計画」に記します。</p> <p>清水小路と東七番丁を結ぶモールの利用につきましては，関係機関と協議を行い，交通安全・治安対策に係る配慮を検討して参ります。具体的な配慮の内容につきましては，準備書の「交通計画」に記します。</p>

意見の概要	事業者の見解
<p>●ビル風の発生問題について、建設設計中に風洞実験で明らかにする必要がある。</p> <p>敷地の北側、南側、東側には住宅が点在し、木造瓦屋根の住宅も多いことを十分考慮しなければならない。風害に係る予測・評価は建築設計段階で行わなければならないが、建築工事終了時に行うとしており、回避・低減方法がない。</p> <p>キャンパス北側のマンション、生命保険会社高層ビルとの総合作用も考慮して予測しなければならないが、コンピューター計算では無理で、高層ビル群のモデルを作り、建築設計中に風洞実験で明らかにする必要がある。</p>	<p>風害に係る予測・評価につきましては、建築設計の段階で、計画建築物ができた状態を想定してシミュレーションする計画です。シミュレーションにあたっては、現地踏査により計画地周辺の建築物等の状況を把握し、これらを考慮した予測を行います。</p> <p>シミュレーションによる風害予測手法は、「市街地風環境予測のための流体数値解析ガイドブック-ガイドラインと検証用データベース」（平成19年、日本建築学会）を用いて行います。本ガイドブックは、風洞実験結果と比較した予測精度の検証が行われていることから信憑性の高い予測手法となっており、風害の環境影響評価で広く用いられております。</p>
<p>●景観評価に東七番丁東側（近景域）が評価項目に含まれていない。</p> <p>高層棟は町内の景観（特に東側）を損なっており、低層化、及びホール棟と入れ替えて清水小路側に建設することが必要である。</p> <p>景観評価に東七番丁東側（近景域）の評価項目がないことと、ホール棟は高層棟の外壁十字架デザインと共に大きなスタンドガラス窓があり、巨大キリスト教会として、プロテスタントクリスチャンのための日曜礼拝等のために作られた感じがあり、近隣住民には近寄りやすい周辺になじまない建物になっている。</p>	<p>景観の予測・評価につきましては、事前踏査により対象事業計画地を視認できる可能性の高い地点を選定しており、東七番丁通では、近景域の評価地点として、地点1(南東側)及び地点3(北東側)の2箇所に調査地点を設定しております。</p> <p>ホール棟及び高層棟につきましては、特徴ある建築のホールを幹線道路沿いに配置し、高層タワーを広場やモールを囲むように配置することで、新たに誕生・成長する学生街を活気に溢れる学都仙台の印象を彩るものになりたいと考えております。</p> <p>また、周辺環境への配慮の方針として、形態や意匠、色彩が周辺の街並みと調和するよう配慮します。</p> <p>なお、説明会で示した外観デザインは構想段階のものであり、施設の配置やデザイン等は今後詳細に検討し、フォトモンタージュを作成することで、眺望景観の変化を予測します。その結果につきましては、準備書にお示しします。</p>

意見の概要	事業者の見解
<p>●<u>将来巨大地震発生可能な断層に考慮する必要がある。</u></p> <p>長町利府断層に平行してキャンパス内に断層があり、仙台市の災害ハザードマップによると地下鉄駅付近から敷地内は危険地域になっており、東日本大震災時液状化現象が生じ、旧市立病院の水道施設に大きな被害が生じていることも考慮する必要がある。</p>	<p>対象事業計画地周辺の断層につきましては、「地域の概況」の「注目すべき地形・地質」及び「災害危険地形」において整理しており、ご指摘の長町利府断層の他に、対象事業計画地の南東側に位置する大年寺山の活断層につきましても抽出しております。</p> <p>既存資料調査によると、対象事業計画地内に長町利府断層及び大年寺山の断層が存在しているとは判断できず、ハザードマップにおける危険度の高い地域ではありませんが、事業の実施にあたっては、安全性の確保の観点から建築物の構造等には留意する計画としており、今後、地質調査を実施した上で最新の基準に従って耐震設計や液状化の検証を行って参ります。具体的な配慮の内容につきましては、準備書の「防災計画」に記します。</p>